

公共交通を基軸とした熊本型コンパクトシティの形成

熊本市都市建設局交通政策総室
室長 古庄 修治

キーワード

①ランドデザインによる認識の共有 ②公共交通再生元年と制度設計 ③協働による取組み

本市では、今後の都市づくりの方向として、超高齢化・人口減少社会の到来、地球規模環境問題等への対応を見据え、「公共交通を基軸とした多核連携の熊本型コンパクトシティの形成」を掲げているが、これを実現するためには、市民、事業者、行政三者の協働と息の長い取組みが求められ、認識と将来方向の共有、長期にわたる施策展開に対する担保が不可欠となる。

そこで、まず、公共交通ランドデザインを描き目指すべき将来像の共有を図るとともに、これを具体化するため、平成24年度を「公共交通再生元年」と位置づけ、今後の施策展開の根拠となる「熊本市公共交通基本条例」の制定、新たなコミュニティ交通の制度構築などに取り組むとともに、平成25年度からは、急行バスの運行やバスと鉄軌道の連携強化など基幹公共交通軸の機能強化、ICTを活用した効率的で利便性の高いバス路線網の再編、交通空白地域、不便地域等に対応したコミュニティ交通の導入など、公共交通ネットワークの再構築に取り組んでいる。